

大山町・嘉手納町人材育成交流事業 初めての雪に大興奮！

1月28日～31日までの3泊4日の日程で、沖縄県嘉手納町から15名の児童が大山町を訪れました。

この事業は昭和62年に国体のソフトボール会場となった嘉手納町が、先進県視察で大山町を訪れたことが縁となり、互いの地域の将来を担う人材育成を目的に始まりました。嘉手納町から



▲初めての雪遊びに大はしゃぎ

の訪問は今回が32回目、大山町内の5年生児童の7家庭に宿泊して交流を深めました。

滞在期間中は、むきばんだ史跡公園でのものづくり体験、国重要文化財門脇家住宅の見学、中山小学校での児童交流など、町内外の施設を訪問して異なる文化を体感しました。

今年は雪不足で、楽しみにしていたスキー体験はできませんでしたが、生まれて初めて見る雪、雪遊びやそり体験など、児童にとって新鮮で忘れられない経験になりました。



▶中山小学校でのエイサー披露



▲お別れ式「また 会おう！」

人と関わる力を育むために 地域の人や自然とのふれ合いを通して

大山きやらほく保育園

大山きやらほく保育園では、異年齢活動や祖父母・地域とのふれ合い活動など、交流を通して、人と関わる力を育むことを目標の一つとして保育に取り組んでいます。

春から、地域の方や祖父母ボランティアの方々にお世話になり、夏野菜の苗植えやタケノコ掘り、ちまき作り、夏にはひまわり迷路遊び、秋になるとさつまいもを収穫して、やきいもパーティーを体験しています。

一月には、とんとさんをしましたが、地域のおじいさんたちが竹や茅等で作ってくださった「しんぼこ」に自分たちが書いた書初めを挟み、火にかざして天まで昇っていく様子を見ながら祈っていました。書初めに『こま』と書いた子どもが、保育園でコマをまわせるようになると「やったあ。願いが叶った。」と喜ぶ姿がありました。また、「竹は燃えたらどうなるの？」と、疑問に思ったことをおじいさんに聞いた、餅を竹で挟んで焼くことを体験したりと貴重な伝承行事を楽しむことができました。

子どもたちは、様々な人との関わり

や体験によって、知らないことや疑問に思ったことなどを教えてもらった、感動したり体感したりしながら豊かな心を育んでいます。

保育園は、子どもが育つ拠点として地域の中で大切にされています。今後、も保育園と家庭、地域が一体となり、身近な自然にふれたり、地域の伝統行事を伝えたりしていきたいと思えます。そして、人に感謝する心を育み、子どもたちのたくさん笑顔に出会える保育園となるように取り組み、子どもが心豊かに育つ保育をしていきたいと思えます。



▲地域の方と一緒に「とんとさん」を体験する園児たち